

小学校特別支援学級 道徳科 学習指導案

- 1 主題名 あきらめない心
内容項目 A 希望と勇気、努力と強い意志
教材名 「とべたよ！」(自作教材)

2 主題について

(1) 主題設定の理由

内容項目 A「希望と勇気、努力と強い意志」は、低学年の「自分のやるべき勉強や仕事をしっかり行うこと」を受け、中学年の「自分でやろうとした目標に向かって、強い意志をもち、粘り強くやり抜くこと」、高学年の「より高い目標を立てて、希望と勇気をもち、困難があってもくじけずに努力して物事を行うこと」と続いていく。ただ漠然と取り組むのではなく、自分に適した目標を設定し、その目標に向かって、勇気をもって困難や失敗を乗り越え、努力することができるようにすることが重要である。

社会で生活していくには、自分の思い通りにならないことや、苦手なことにも取り組まなければならない場面がたくさんある。その中で、努力して取り組んだ達成感を味わったり、苦手なことを少しでも克服したりしていくことが大切である。特別支援学級である本学級の児童は、興味・関心のあることについては意欲的に取り組むものの、好き嫌いで物事を判断し、つらいことや苦しいことがあると、くじけてしまうことが多くある。また、個人特有のこだわりをもち、こだわりによって取り組めるものに差が出ることも多い。自分のやるべき勉強や仕事を自分のこととして意識して行動することが大切であると考えた。また、家族や教師の励ましによってやり遂げたときの喜びや充実感を味わい、努力した自分を実感できるようにしたい。

(2) 児童の実態

本学級では週に1回道徳の学習に取り組んでいる。日常生活や行事等で考えられる場面や児童の実態を踏まえて、公共の場での過ごし方や友達への接し方などを動作化して学習し、このような場面では、どのような行動をとればよいのかを全員で考える場として設定している。同様の内容で生活单元等の時間に行うこともあるが、道徳で学習したことを繰り返し、行事全体の流れと関連付けて学習を設定している。

本学級の児童は、学級のほとんどを低学年の児童が占めている。4月から半年が経ち、落ち着いて学習に取り組んだり、生活したりできるようになってきた。学習は習熟度グループと全体での学習とを交えながら行っており、道徳の時間は全体で学習に取り組んでいる。昨年度から、児童数が増え、友達と一緒に活動することを楽しめるようになってきている。友達を誘って遊びに行ったり、やさしく声をかけたりと他者に対して、上手に接することができるようになってきた。しかし、自分自身のこととなると、できないことや苦手なことに対して、すぐにあきらめてしまったり、癩癩を起してしまったりして、すぐに別なことに逃げようとする様子が見られる。気持ちを切り替えて別なことに取り組むことで、落ち着いて生活していくことも大事なことだが、ある程度の目標を決めて、その目標に向かって努力したり継続して取り組んだりできるようになってほしいと考えた。

本時の資料を使って、努力することやあきらめないことで、その先にうれしいことや楽しいこと、達成感が味わえることを伝えていきたい。また、友達に応援されることで頑張りたい気持ちが起こることもあわせて伝えていきたい。

(3) 教材について

本教材「とべたよ！」は、教科書教材を参考にして作成した自作教材である。跳ぶことが得意なぴよんたが跳び箱学習に取り組む。一緒に学習してたくまのコロくんは、体が大きく、すぐに跳び越してしまう。ぴよんたも跳んでみるが跳ぶことができなかった。周りの友達はどんどん跳び箱を跳んでいく。それを見て、ぴよんたは、跳ぶことをあきらめてしまう。そんな時、ぴよんたよりも体の小さなコリンちゃんが、一生懸命練習している様子を見かけた。何度も練習をしていくうちに、跳び箱を跳ぶことができた。それをみていたぴよんたは、このままで良いのかと考え直し、再び練習に取り組む。その結果、跳び箱を跳ぶことができたという内容である。

本教材において、1時間の中で跳べなかったときと跳べたときの両方の動作化と気持ちを考えさせることは難しいと考え、体育の跳び箱学習の初めの様子を映像で撮影し、その映像を見返すことで、できなかった時の気持ちを想起させる。その際に、跳び箱を跳べずにあきらめてしまう気持ちやできなかった時の気持ちを思い出させたい。本時では、その後の動作化を行う。体育で跳び箱練習を繰り返したことで、跳べなかった跳び箱が跳べるようになったという嬉しさや達成感を味わわせたい。そして、苦手なことでも繰り返し練習したり、強い意志をもって取り組んだりすることで、努力をすればできるようになることを伝えていきたい。

興味関心を引くための導入の工夫

○後期のめあての提示

児童それぞれのめあてを確認したあとで、主人公ぴよんたのめあても提示する。そして、パネルシアターへと話をつなげていくことで、教材により興味を持てるようにする。

○パネルシアターにして提示する

教材をパネルシアターで提示する。登場人物の動きを、話の内容に合わせて視覚化し、物語の内容が理解できるようにする。

考えるための手立て

○教材文を分割する

児童が、物語の世界だけでなく自分のこととして捉えられるように、教材文を分割して提示する。

○映像の提示

体育の跳び箱学習の1時間目を映像に残すことによって、跳べなかったときの気持ちを思い出せるようにする。思い出すことが難しい児童でも映像を観ることで、今の自分との違いや成長したところに気づくことができるようにする。

○動作化

実際に跳び箱を跳ぶ場を設定することで、できたを実感できるようにしたい。もし、跳べなかったと

しても、もう1回挑戦したい、これからも練習したいという思いをもてるようにする。

振り返りの工夫

○体育カードの使用

体育の時間に記入した毎時間のカードを見返すことで、できるようになるまでにどのような練習や、どのくらいの時間練習したのかを確認し、自分のがんばりに気付けるようにする。

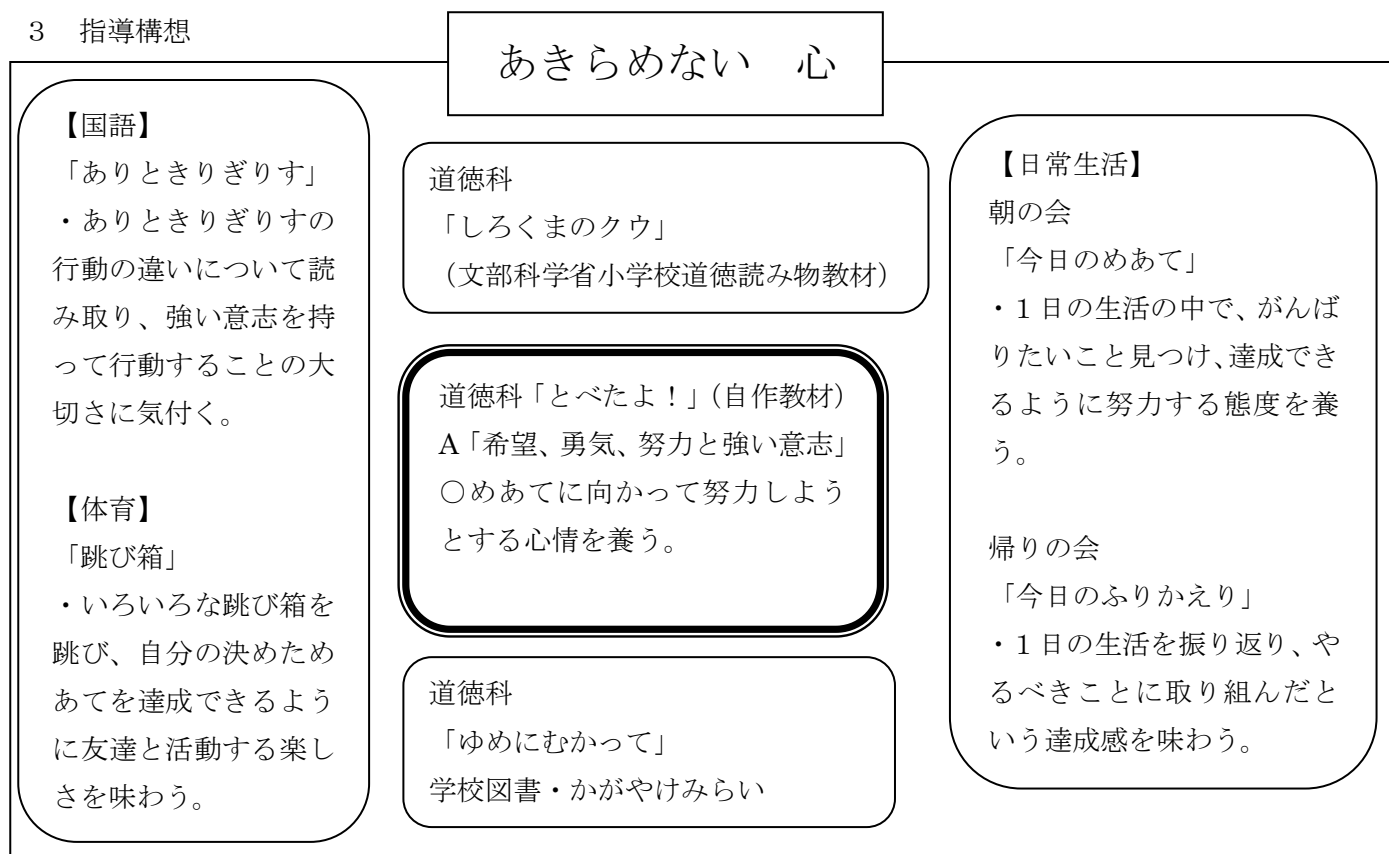
○表情カードによる気持ちの変化

言葉による考えの表現が難しい児童には、カードに描いてある表情を見て自分の考えを表現できるようにする。

○後期のめあてを使った振り返り

授業の終末で、これからの自分について考える場面がある。その場面で、導入で提示した後期のめあてをもう一度振り返り、跳び箱を跳べたことと同じように、後期のめあてを達成するためにはどのようなことに取り組んでいけばよいのかを考えられるようにする。また、後期のめあての中にも記入させることで、授業後も意識して生活できるようにする。

3 指導構想



② 個別のねらい

	本時のねらい	手立て
--	--------	-----

1年A (女)	○跳ぶことをあきらめたときと、あきらめず練習して跳べたときの気持ちを考え、どちらがよいかを教師と一緒に考えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちを表したカードを使って、表情の違いから、どちらのほうが良いかを考える。 ・教師との会話の中で、思いを表出した時には、教師がワークシートに書き残すようにする。
1年B (男)	○跳ぶことをあきらめたときと、あきらめず練習して跳べたときの気持ちを考え、どちらがよいかを考えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちを表したカードを使って、表情の違いから、どちらのほうが良いかを考える。 ・教師との会話の中で思いを表出した時には、教師がワークシートに書き残し、文字をなぞれるようにする。
2年C (女)	○あきらめずに挑戦する大切さに気付くことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・体育カードに、その日の気持ちを書き込むようにしておくことで、跳べなかった時の気持ちを想起しやすくする。 ・動作化をすることで、跳べた時のうれしさや達成感を感じられるようにする。
2年D (男)	○あきらめずに挑戦する大切さに気付くことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・体育カードに、その日の気持ちを書き込むようにしておくことで、跳べなかった時の気持ちを想起しやすくする。 ・動作化をすることで、跳べた時のうれしさや達成感を感じられるようにする。
2年E (女)	○あきらめずに挑戦する大切さに気付くことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・体育カードに、その日の気持ちを書き込むようにしておくことで、跳べなかった時の気持ちを想起しやすくする。 ・動作化をすることで、跳べた時のうれしさや達成感を感じられるようにする。
5年F (女)	○めあてを達成するためには、どんな気持ちをもつことが大切なのかを考えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・体育カードに、その日の気持ちを書き込むようにしておくことで、跳べなかった時の気持ちを想起しやすくする。 ・どちらの気持ちも考えて比較することで、挑戦するには、どんな気持ちをもつことが大切なのかを考えられるようにする。

(2) 展開

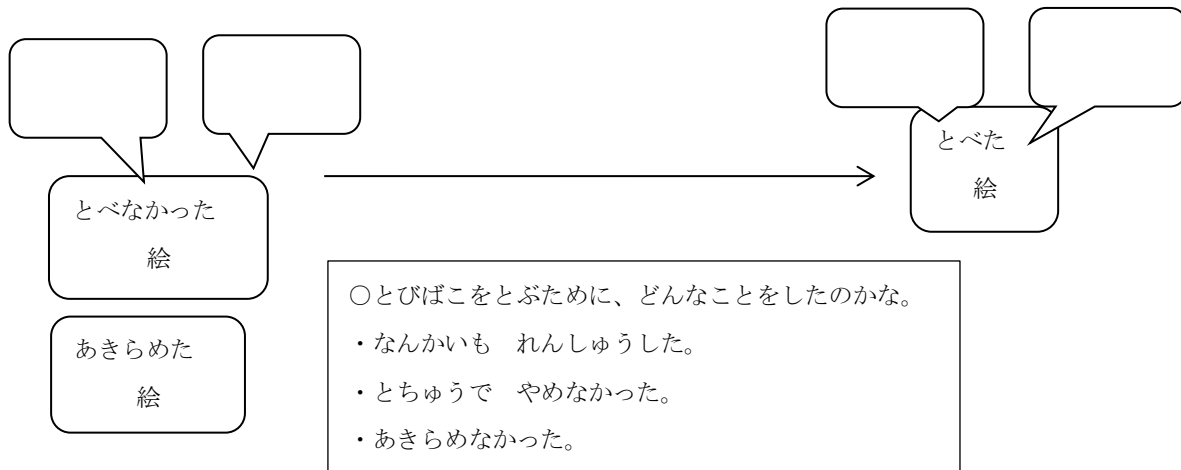
過程	学習活動と内容	教師の指導や支援 (○) と評価 (◇)	教材・教具
導入 (3)	<p>1 後期のめあてについて話をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢字が書けるように頑張りたい。 ・算数の計算を間違えないようにしたい。 ・ボールを上手に投げられるようにしたい。 	○児童の書いた後期のめあての中に、本時の内容になるびよんたのめあてを混ぜて提示する。	後期のめあて 主人公のめあて

<p>展開 (35)</p>	<p>2 「とべたよ！」の前半部分を聞く。 ○ぴよんたと同じようなことをみんなも経験していませんか。 ①映像を見返し、跳べなかった時の気持ちを思い出す。 ・悲しかった ・くやしかった</p> <p>3 「とべたよ！」の後半部分を聞く。 ① ぴよんたの気持ちを考える。 ○ぴよんたは、最後どんな気持ちになりましたか。 ・跳べてうれしかった。 ・もっと跳びたくなった。</p> <p>② 動作化して、自分が跳べた時の達成感を味わう。 ○跳べたり、上手になったりして、どんな気持ちになりましたか。 ・うれしい。 ・やった。 ・練習がんばった！</p> <p>4 どのようなことに取り組んだり、どのような気持ちをもったりしたことで、跳び箱を跳べるようになったのかを考える。 ○跳び箱は、急に跳べるようになったのかな？跳ぶために、どんなことを</p>	<p>○パネルを動かして、見せることで内容を理解できるようにする。 ○教材文を前後半に分けることで、主人公の気持ちの変化を比較しやすくする。 ○児童の境遇がぴよんたと同じであることを押さえる。 ○体育の学習の導入段階での映像を見せ、跳べなかった時の気持ちを想起させる。 ○気持ちを考えられない児童は表情カードや気持ちカードを使って表現できるようにする。</p> <p>○ワークスペースに跳び箱を出し、跳び箱を跳べた時の達成感を感じられるようにする。 (跳べた児童) ・跳べなかった友達にどう接すればよいのかを聞くようにする。 (跳べなかった児童) ・跳べなかった児童には、上手になった様子を伝え、この後どのようにしていきたいかを聞くようにする。 ○跳び箱がすぐに跳べるようになったわけではないことを確認し、今までどのようなことに取り組んできたのを考えられるようにする。 ○思い出せない児童には、体育カードを見せ、どのようなことに取り組んできたのかを確認できるようにする。</p> <p>◇あきらめずに取り組むことで気持ちが変わることに気付くことができたか。(児童 AB) ◇めあてにむかってあきらめずに取り組むことの大切さに気付くことがで</p>	<p>パネルシアター</p> <p>体育の映像 テレビ ワークシート 気持ちカード 表情カード</p> <p>跳び箱 マット</p> <p>体育カード</p>
--------------------	--	---	---

<p>終末 (7)</p>	<p>したのかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・急に跳べるようにはならない。 ・何回も練習したから跳べた。 ・途中でやめなかった。 ・あきらめなかったから、跳ぶことができて楽しくなった。 ・もっと高い跳び箱も跳びたい。 <p>5 後期のめあてをどのように達成するかを考え、めあての紙に書き込む。</p> <p>○できるようになるために、みんなはこれから、どんなことをしたら良いですか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これから、毎日漢字を練習したい。 ・計算を間違えても、もう1回解く。 ・毎日ボールを投げる練習をしたい。 	<p>きたか。(児童 CDEF)</p> <p>○教師がびよんたのめあてに、跳ぶためにどんなことをしたのかを書き込むことで、跳び箱の場面から後期のめあてへと気持ちを向けやすくする。</p> <p>○後期のめあてがすぐに達成できるものではないことを伝え、これからどのようなことに取り組んでいきたいかを考えるようにする。(児童 CDEF)</p> <p>○後期が終わったときに、どんな気持ちになりたいかを考えるようにする。(児童 AB)</p>	<p>後期のめあて</p>
-------------------	---	--	---------------

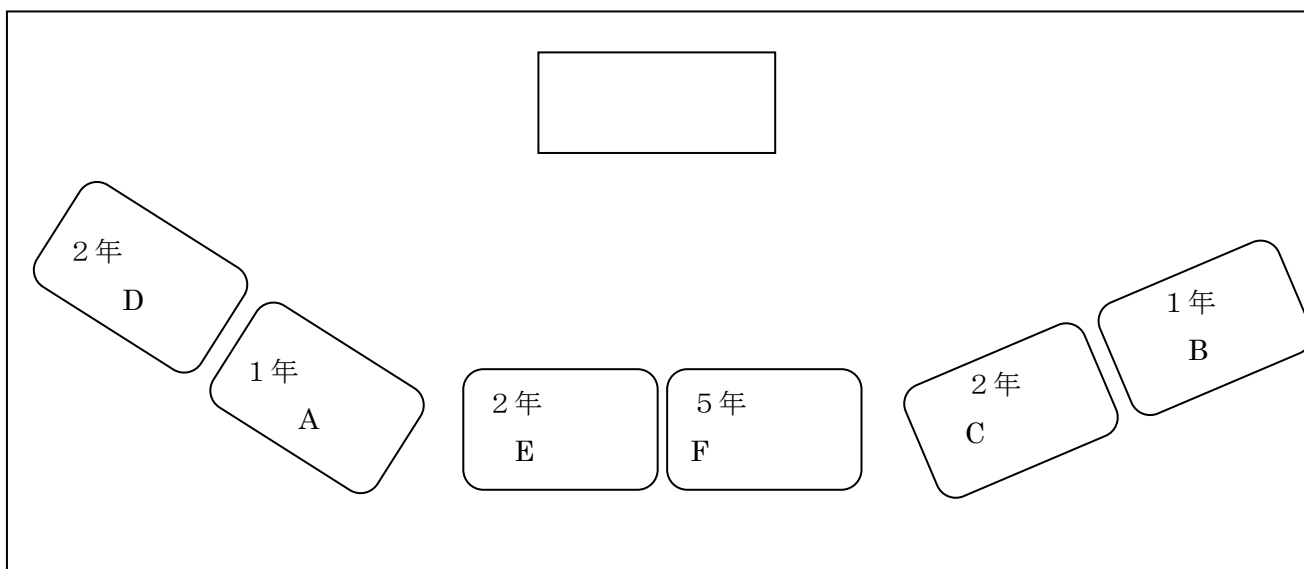
(3) 板書計画

「とべたよ」



座席

(教室)



(ワークスペース)

